

●須田港⇄粟島⇄宮ノ下港の船

下り	須田 - 粟島 - 宮の下						
港	須田	粟島		上新田	志々島		宮の下
便	発	着	発	着	発	着	着
1	6:20	6:35	6:55	7:10	7:10	7:25	7:45
2	7:25	7:40					
3	9:10	9:25					
4	10:45	11:00	11:00	11:15	11:15	11:30	11:50
5	12:40	12:55					
6	15:10	15:25	15:25	15:40	15:40	15:55	16:15
7	18:00	18:15					
8	19:05	19:20					

上り	宮の下 - 粟島 - 須田						
港	宮の下	志々島		上新田	粟島		須田
便	発	着	発	着	発	着	着
1							6:45 7:00
2							7:50 8:05
3	8:30	8:50	8:50	9:05	9:05	9:20	9:35 9:50
4							11:15 11:30
5	12:45	13:05	13:05	13:20	13:20	13:35	14:30 14:45
6	16:20	16:40	16:40	16:55	16:55	17:10	17:15 17:30
7							18:25 18:40
8							19:30 19:45

粟島汽船 / TEL:0875-83-3204 定員:70人 料金:須田-粟島 大人330円、小人170円

●本島⇄高見島⇄粟島の船

本島発	高見島発	粟島着	粟島発	高見島発	本島着
10:00	10:35	10:55	10:00	10:25	10:55
11:15	11:50	12:10	11:15	11:40	12:10
12:25	13:00	13:20	12:25	12:50	13:20
13:30	14:05	14:25	13:30	13:55	14:25
14:35	15:10	15:30	14:35	15:00	15:30
15:40	16:15	16:35	15:40	16:05	16:35



島外から粟島へのアクセス

粟島へは須田港、宮ノ下港の2か所から船が出ています。
瀬戸内国際芸術祭2019の秋会期中は、
同じ会場となる高見島、本島と周遊できる船も運行します。

にじ観光 / TEL:0877-24-6300 定員:約70人
料金:本島-高見島:大人1,000円・小人500円
高見島-粟島:大人800円・小人400円

●三豊市コミュニティバス

詫間線・詫間三野線 (月~土)

JR詫間駅	7:22	7:59	8:00	8:48	9:35	10:08	10:19	11:20	12:10	12:58	14:07	14:46
詫間庁舎(宮ノ下港最寄り)	7:32	8:09	8:04	8:58	9:47	10:17	10:31	11:32	12:22	13:07	14:19	14:58
須田	7:39	8:16	8:10	9:05	9:54	10:29	10:38	11:39	12:29	13:19	14:26	15:05
※粟島汽船 須田港発				9:10			10:45		12:40			15:10

須田	9:55	10:54	11:01	11:37	13:06	13:47	14:01	15:03	15:56	16:16	16:44	17:41	17:51
詫間庁舎(宮ノ下港最寄り)	10:02	11:01	11:13	11:44	13:13	13:59	14:08	15:10	16:08	16:23	16:51	17:48	18:03
JR詫間駅	10:13	11:12	11:22	11:55	13:24	14:08	14:19	15:21	16:17	16:34	17:02	18:00	18:12

詫間線 (日・祝)

JR詫間駅	8:44	10:21	12:05	14:25
詫間庁舎(宮ノ下港最寄り)	8:54	10:33	12:17	14:37
須田	9:01	10:40	12:24	14:44
※粟島汽船 須田港発	9:10	10:45	12:40	15:10

須田	10:00	11:39	13:36	15:11	16:32	17:40
詫間庁舎(宮ノ下港最寄り)	10:07	11:46	13:43	15:18	16:39	17:47
JR詫間駅	10:18	11:57	13:54	15:29	16:50	17:59

三豊市管財課 / TEL:0875-73-3003 料金:一律100円



須田港へのアクセス

公共交通機関を使う場合、
須田港にはJR詫間駅が最寄りとなります。
また、秋会期中は、経面臨時駐車場が設けられます。

●芸術祭時の臨時シャトルバス

駅と港を結ぶ

駐車場と港を結ぶ

JR詫間駅 ↔ 須田港
平日 = 8:00 - 18:00 運行
土日祝 = 8:00 - 18:00 運行

経面臨時駐車場 ↔ 須田港
平日 = 8:00 - 18:00 運行
土日祝 = 8:00 - 18:00 運行

※経面臨時駐車場については、三豊市のウェブサイト参照ください。



三豊市観光交流課 / TEL:0875-73-3013

発行 | 瀬戸内国際芸術祭三豊市実行委員会
TEL:0875-73-3013
E-mail:kankou@city.mitoyo.lg.jp

粟島 AWASHIMA

S E T O U C H I
T R I E N N A L E
2 0 1 9



▲公式地図アプリ無料ダウンロード
Official map application download for free



開催期間 秋(ひろがる秋) 9月28日[土] — 11月4日[月]

鑑賞可能時間 9:40 — 16:30 **休日** 無休

- ※ **01**の「一昨日丸」は土日祝日の11:30、13:15、15:00〜で運行します(1回30分、10月5、12、19日は休み。定員20人、料金1,000円)。
- ※ **02**の「種は船プロジェクト」は期間中、不定休で随時運行します(定員4人、料金は無料)。
- ※ **08**の食プロジェクト「PhoUdon & COFFEE HOUSE」では、土・日・祝の11:00—14:00で飲食メニューを数量限定で提供します(10月14、20、22日は休み)。
- ※台風などの天候不順時に臨時休業をする可能性があります。

aw 01 Re-ing-A
日比野 克彦

aw 05 SOKO LABO

粟島海洋記念館 / 湯東 / 西浜

aw 04 粟島芸術家村
大小島 真木 / マユール・ワイエダ

aw 06 思考の輪郭
エステル・ストッカー

aw 07 過ぎ去った子供達の歌
ムニール・ファトゥミ

aw 08 ナイト&デイ(人生は続く) / この家の貴女へ贈る花束 / PhoUdon & COFFEE HOUSE
ディン・Q・レ

aw 01 ソコソコ想像所
日比野 克彦

aw 03 TARA
TARA

aw 05 SOKO LABO

aw 01 一昨日丸
日比野 克彦

aw 02 種は船プロジェクト
日比野 克彦

aw 09 ヒキコモリ
リチャード・ストライトマター・トラン

粟島神社
国民健康保険粟島診療所
漂流郵便局
旧粟島小学校
旧粟島幼稚園
Art Canvas Awashima
旧粟島中学校
武内商店
粟島港
粟島港案内所 (粟島開発総合センター) 11:00-16:30 (会期中無休) TEL: 080-4993-0061 (秋会期中のみ) ※荷物預かり所あり

レンタサイクル
粟島話所(粟島港) 無人 1日500円 ※予約不可

ル・ポール粟島
あわろは食堂

●駐在所

※ **aw 10**の須田港待合所プロジェクト「みなとのロープハウス」(山田紗子)は須田港に展示。

須田港案内所
(須田港待合所、島外)
須田港粟島汽船発着所の手前
営業時間: 8:30—17:30
会期中無休
TEL: 080-4993-0062 (秋会期中のみ)

アートの向こうに見える未来

人口約200人、周囲16kmの粟島は、かつて「船乗りたちの島」でした。昔は瀬戸内海の手廻りで栄え、1897年には、日本初の海員養成学校が設立されました。学校は1987年に廃校となりましたが、世界の海を巡った元船員たちが今も住む粟島には、開放的な雰囲気が漂っています。

こんな粟島のアートには、大きく3つの特徴があります。

第1に、島民の力が生きた作品。粟島では、過疎化の一方で、島民作家が名物「ふいふいガーデン」を制作するなど、文化活動が盛んです。こうした島民たちが、島外作家たちの制作を後押ししています^(※)。

第2に、「海」関連の作品。海の汚染はいま、世界的課題となっています。粟島のある三豊市では、ボランティアの方々が砂浜のゴミ拾いといった活動に積極的に取り組んできました。そうした経緯も踏まえつつ、今回は、科学探査船、タラ号の展示や、その他の海に関する作品の展示が行われます。

第3に、ベトナム作家の作品。三豊市には、現在、多くのベトナムの方が働いています。こうした点を踏まえ、今回、ベトナムから2人の作家と、民族芸能の演者を招いています。

過疎化、海的环境汚染、グローバル化する社会の在り方……。粟島のアートが問いかけるのは、日本の明日の姿でもあります。この小さな島で、私たちの未来と一緒に思い描いてみませんか？

※P3-4に、島民が協力して制作した**aw 04**に関する、作家の大小島真木とマユール・ワイエダによる解説を掲載します。

瀬戸内国芸術祭・粟島の特設ウェブサイトはこちら！

アーティストや島民へのインタビュー、アートの解説やお得情報などは、こちらからチェックしてください！(三豊市観光交流局ウェブサイト)



食 粟島で食べる

郷土料理復活弁当

三豊市の郷土料理を使ったお弁当。秋会期中の土、日、祝日の午前11時〜、数量限定で販売します。販売場所は須田港すぐそばの「三豊鶴」。※P6も参照ください。



あわろは食堂

住所: 香川県三豊市詫間町粟島1619
TEL: 090-3181-8360
営業時間: 金土日祝の11:00—17:00頃
※詳細はP5も参照ください。

ル・ポール粟島

住所: 香川県三豊市詫間町粟島1418-2
TEL: 0875-84-7878
営業時間: 11:30—14:00 (ランチ)
※詳細はP5も参照ください。

武内商店

※スナック等のみ
三豊市詫間町粟島1348
TEL: 0875-84-7015
営業時間: 月〜土の7:00—18:00
※詳細はP5も参照ください。

※ **aw 08**の「PhoUdon & COFFEE HOUSE」でも飲食が楽しめます。

泊 粟島で泊まる

Art Canvas Awashima

香川県三豊市詫間町粟島1430-7
TEL: 080-7201-8369
宿泊: 15,000円〜

ル・ポール粟島

宿泊: 1泊2食付8,500円〜

民宿ぎんなん

三豊市詫間町粟島2217
TEL: 0875-84-6448
休み: 無休
宿泊: 1泊2食付8,000円〜

粟島太郎

三豊市詫間町粟島1090
TEL: 090-7143-2416
宿泊: 1泊2食付8,800円〜

粟島ロッジ

三豊市詫間町粟島642-6
TEL: 0875-84-7387
宿泊: 素泊まり3,700円〜



※事前に必ず予約のお問合せをお願いします。

大小島真木は一体の白い鯨の遺体と海の上で出会いました。皮が溶けて、脂肪がむき出しになっているその身体はたくさんの鳥や魚たちに食べられていたのです。海は、繰り返す生命が溶けているところ—“海、生命のスープ”。鯨の身体はその生命を終えた後も、多様な海洋生物の糧となりながら化石となり、その骸は生態系の家へと変化していきます。”死ねば土になる、そして土からまた生命が生まれる。”というのは、インドの少数民族であるワルリー族に伝わる物語の一部であり、この世の理そのものであると言えます。鯨は伝達者として、洞窟の中に現れ、生物が繰り返しながら作ってきた命のあり方を語ります。海、土、山、天、そして多様性の連鎖がこの地上を作り出しているのです。

洞窟は人類の旅路を語っています。ワルリー族は壁画を描く文化を何千年にもわたって継承して来ました。ワルリー族にとって、壁画は彼らの書き言葉なのです。ワルリー画の始まりがインドの中央部のピンベトカと言う場所から、洞窟壁画として発見されています。人はかつて洞窟に住み、家として、儀式的場として使ってきました。そこは物語が語られ始めた、始まりの場所の一つでもあったのです。この洞窟はマユール・ワイエダと彼の2人の兄弟たちが、インドから日本の粟島にやって来て、たくさんの人たちと一緒に作り出したものです。粟島の廃屋の木を含めた木材の上に、新聞紙や三豊市のシュレッダーの紙に漆喰やボンド、水を使いました。現在という時を刻んだマテリアルが溶け、時を遡り、洞窟というプリミティブなものにも戻っていく。ワルリー三兄弟は洞窟を作りながら、彼らのルーツを辿り、そして自然界の目を通して、現在を見つめているのです。伝達者である鯨は洞窟とシンクロしながら、この場で皆に、語りかけます。

Maki Ohkojima met the body of a white whale floating on the surface of the sea. Its body, with its skin melted and exposed fat, was eaten by many birds and fish. The sea is where the repeated life melts—“Sea, soup of life”. Even after the body of the whale has finished their life, it becomes a fossil while serving as a source of various marine life, and its skeleton is transformed into an ecosystem home.

“If you die, you will become soil, and life will be born again.” It's a part of the story of the Warli Tribe in India, and it can be said this is the logic of this world. The whale appears in the cave as a messenger and narrates about the life that the creature has made repeatedly. The sea, earth, mountains, sky, and chain of diversity create this earth.

The Cave Mural narrates about the Journey of Mankind.

The Warli have inherited the mural painting culture from thousands of years ago. Warli Tribal People have their language but they don't have any script, but Warli murals and paintings are their alphabets to transmit the stories, experience, myths and it expresses all the emotions and everyday life in a painted script. The beginning of the origin of the Warli painting has been found in the cave mural in the center of the India place called Bhimbetka. People once lived in caves, used as homes as shelter and ceremonial venues. It was also one of the beginning places where the storytelling culture began to be told. This cave was created mainly by Mayur Vayeda and his two Warli brothers who came from India to Awashima in Japan. And worked together with many people. We used newspapers, shredder papers of Mitoyo City offices and schools, plaster, glue, and water on the timber including the abandoned houses in Awashima. All those Documents and current pieces of information around the world now melt as materials, go back in time, and return to cave primitives. The three Warli brothers follow their roots while making caves and are looking at the present through the eyes of nature. The whale a messenger synchronizing with the cave narrates towards everyone in this place.

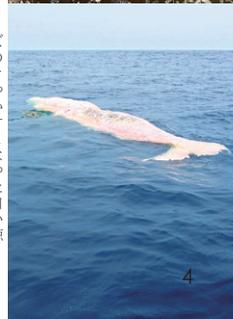
粟島芸術家村
Awashima Artists Village



大小島真木 Maki Ohkojima 左から：トゥッシャル Tushar Vayeda、マユール・ワイエダ Mayur Vayeda、ピカス・ボンギャ Vikas Bonge

言葉としての洞窟壁画と、鯨が酸素に生まれ変わる物語

Cave Mural as a script and story whale being reborn as oxygen.



上の写真から…珊瑚の心臓／ワルリーの自然神／海の刺繍／洞窟壁画の一部／鯨シリーズのきっかけとなった白い鯨

*この作品は、アーティスト大小島真木、ワルリー三兄弟（マユール、トゥッシャル、ピカス）そして粟島の皆さんを中心とした大きな共同体で作られました。

粟島を楽しもう！つながろう！

粟島の魅力は、アートだけではなくありません。レトロな雰囲気、温かい人、おいしい食べ物……。
芸術祭の期間以外にも、静かな雰囲気を味わったり、グルメを堪能したり、
地域の人に会いに来たりしてみませんか？

島四国八十八カ所めぐり



毎年4月29日に開催されているイベント。粟島のお地蔵さんを巡礼して回ります。当日は、島の方々がお菓子やジュースのお接待などをして、お遍路さんを迎えてくれますよ。行く際は、お賽銭をご準備ください。詳細は三豊市のウェブサイトをご確認ください。

Awashima Adventure



毎年5～6月頃の週末に開催されている国際交流イベント。三豊市の近くに住む外国人や国際交流に関心がある人たちが集まり、粟島の絶景スポット「城山」に登ったり、バーベキューを楽しんだりします。詳細は三豊市の国際交流 Facebook をご確認ください。

地域のひとと触れるイベント

あわろは食堂



島で採れた魚を使った「あわろは定食」をはじめ、島グルメやパフェなどを味わえるカフェ。海を臨む絶景スポットで、店内にはあちこちに粟島に滞在したアーティストたちの足跡を見ることができます。5～10月末までオープンしています。なお、秋会期中は11月4日まで、限定メニューを提供します。
※住所等の詳細はP2をご確認ください。

粟島のグルメを味わうスポット

ル・ポール粟島



粟島の宿泊・ランチスポットとして人気のル・ポール粟島。冬は、粟島近海で採れた牡蠣を使った牡蠣づくし会席のほか、河豚づくし会席も堪能できます。ル・ポール粟島では、夏に海を青く染める神秘的な「海ほたる」の鑑賞会にも参加できますよ。
※住所等の詳細はP2をご確認ください。

漂流郵便局



天国にいる家族への手紙といった、「宛先のない手紙」を預かる郵便局。2013年の瀬戸内国際芸術祭のアート作品として設立されました。瀬戸内国際芸術祭の期間中は土日祝日、期間外は第2・第4土曜日にオープンしています。04「粟島芸術家村」から徒歩すぐです。

粟島を深く感じるスポット

武内商店



アイスクリームや飲み物などを販売している、昔ながらの商店。この軒先で休憩しながら、来島者や店のご主人と話をしていると、粟島がぐっと身近に感じられるようになりますよ。
※詳細はP2をご確認ください。

粟島と一緒に回りたい！三豊の魅力

美しい自然と絶景、それらを守る温かい人たち、オシャレなレストランやカフェ……。
粟島がある三豊市は、ユニークなスポットがたくさんあります。
何度も訪れたいくなる三豊の魅力の一端をご紹介します。

志々島



アクセス 宮ノ下港から船で約20分
<http://www.mitoyo-kanko.com/shishijimaisland/>

神秘の大楠から力をもらおう！

粟島の隣にある志々島は、周遊にぴったりのハイキングスポット。人口20人ほどで、車が1台も走っていない自然豊かな島では、特に樹齢1,200年の「大楠」が人気です。その神秘的なオーラに打たれて、志々島ファンになった人も少なくありません。港近くには、「大楠」に惚れ込んで移住したご夫婦が運営する休憩所「くすくす」があります。アイスクリームやハーブティーが楽しめるほか、志々島を愛するアーティストがつくった絵はがきや焼き物なども購入できますよ。また、島の宿である「きんせんか」も Airbnb から予約できます。木々が鳴らす風や波の音を聴きながら、深い自然に包まれて過ごす1夜は、きっと忘れられないものになるでしょう。



父母ヶ浜



日本一の夕日の絶景スポット！

大手旅行メディアから2018年、「夕日の絶景ランキング」で第1位に選ばれた父母ヶ浜は、神秘的な景観を撮影できる写真映えスポット。2019年7月には「父母ヶ浜ポート」がオープンし、オシャレなお店も多くあります。父母ヶ浜では、20年以上前から地元の人たちが、毎月の第1日曜の朝6時(11～3月は7時)から、ごみ拾いを行っています。こちらは誰でも参加可能。地元の人たちとおしゃべりを楽しみながら、美しくなった砂浜を眺めれば、観光だけでは得られない爽快感を味わえるかも！

アクセス JR 詫間駅からバスで24分
<http://www.mitoyo-kanko.com/chichibugahama/>

三豊鶴



アートを楽しめる旧酒蔵レストラン！

熱い思いを持つ地元事業者たちが集まって2019年4月末にプレオープン、8月に本格オープンしたイベントレストラン。もともと酒蔵として使われていた場所を、リノベーションした空間は、中にいるだけでいい菌に「醸されそう」な雰囲気に満ちています。「三豊鶴」にはアートギャラリーがあり、小川貴一郎、寺井ルイ理、西永拓郎各氏のアートが楽しめます。粟島の玄関口である須田港から徒歩1分程度なので、粟島の行き帰りのついでに立ち寄るのにもぴったりです。

アクセス 須田港から徒歩1分
<https://www.mitoyotsuru.com/>